

# 「パリ協定」達成は困難

CAT 発表

【ベルリン＝桑野白馬】

国際環境シンクタンク「クライメット・アクション・トラッカー（CAT）」は8日、ロシアのウクライナ侵略を受け、欧州各国を中心に新たな化石燃料への回帰が起き、地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」の目標を達成できなくなる恐れがあるとする報告書を発表しました。

CATは侵略後の各国のエネルギー政策を調査。世界的なエネルギー

価格の高騰が、新たな化石燃料への「ゴールドラッシュ」を引き起こしていると強調しました。液化天然ガス（LNG）をロシア以外から調達するためドイツ、イギリス、ギリシャ、オランダで新たなLNGの輸入基地が計画されていることが明らか。欧州連合（EU）への供給量は侵略前より増加すると分析しています。

その上で、新たな化石燃料インフラへの投資の増加は、温室効果ガス排出を長期間固定化すると指摘。世界の平均気温上

昇を産業革命前から1.5度未満に抑えるとするパリ協定の目標に「手が届かなくなる」と警告し、新たな化石燃料インフラの開発や投資を停止するよう提言しました。

エネルギー価格高騰を受けた各国の対策の大半が、ガソリンやディーゼル燃料への減税と言った「化石燃料を多用する行動」への補償だと指摘。記録的な売り上げをあげている化石燃料会社に課税し始めている国はイタリア、スペインなどわずかな国にとどまっているとしています。